女學雜誌

第二百六十三號

明治二十四年五月二日發兌

繪入 笑ひ草（新聲舍）

全國女學校 卒業女生姓名一覧表

女學生の理想

韻文 想夫行（雲翠子）

下六番町六番地 女學雜誌社

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 263. MAY, 2ND. 1891.

EDITORIAL:—Christianity in Japan. III. (The Ideal Church.) (Concluded).

MISCELLANEOUS:—A Widow's Vision (a poem). Unposhi. The School Girl's Object in Life. (Answers). Women of Siberia by Miss F. Willard; Women Plus Time. III.

NOVEL:—Courtship of "Miles Standish"; "Shikai no Arashi" (A Story of persecution in Japan in the 16th Century.)

CRITICAL NOTES:—"Saru-men-Kwanjiya." (A Novel Describing Hideyoshi's Character); "Totsugawa" (A Historical Novel).

SEED THOUGHT:—

HUMOROUS:—

NOTES AND NEWS.

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

NAMES of Graduates from Different Girls Schools in the Empire (I).

第二百六十三號目次

社說 日本の宗教(教制、新佛教、理想教會、日本教育)

雜錄 飄文想大行(雲峯子)○女學生の理想(何事か尤さも樂しく面白く且つ望ましきやの問に對する十三女學生の答)○現世の陰府シベリアの眞狀○近三年間米國婦人の進步

小說 マイルス、スタンヂッシュの戀(愛山逸民)○紫海の嵐(みさを)

批評 猿面冠者(美妙齋著)○十津川(學海居士著)○海外女學

文學 和歌數首(東京案山子の屋社中)○文學上の德義

笑草 さま〴〵○婚后變遷の奇書

隨感 直諫は一番鎗よりも難し(不希雄)

時事 西鄉將來○「自由」新聞○モルトケ將軍○廢娼論者○宗教界○貧富論○女子に綸書○女壯士○貧民婦女學校○國民兵學校○女文會○宮中女官論○不景氣一轉

問答

女報

通信

週報

物價

全國女學校卒業生姓名

廣告

女學雜誌社出版書目

著者	書名	册數	價
鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一册	價八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一册	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一册	同三十五錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一册	同十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一册	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一册	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一册	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一册	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一册	同五錢
島田三郎、巖本善治兩君同著	公娼可減	一册	同四錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一册	同十二錢
林學生星野愼君著	混出植物金石採集法	一册	同十二錢
明治女學校教師八木兼辰君著	和謌手本	四册	同壹圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八册	同四十錢

下六番町六番地

女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百六十三號 明治二十四年五月二日發兌

社説

日本の基督教（下）

十。教制

チスレリー曰く、吾等は餘り多く制度に重きを置き、餘り少しく人物に重きを置けりと。蓋し、萬づの活業は人を以て動く、制度の力によりて活動するは極めて稀なり。特に、道徳上、宗教上などの事業に至りては、尙更ら然りとす。たゞ制度の力を以て人を善くせんと欲するは、喩えば型を用ひて人間を産まんとするが如し。斯して人形は出來得べし、活人間は得て生るゝとなし。左れど亦た餘り多く制度を輕んず可きにあらず。制度は人の造りたるものにて、亦人によりて働らく、人に次ぎて尤とも力あるものは、即はち制度なるべし。吾人此を以て、今の宗教界に偉大の人物を生ぜんとを只管らに願ひ、未だ曾て制度にのみ眼を着くるとあらず。然れども、既に人の事に付きて言ひ了りたる后ちは、次に制度の事に注意せずんばある可らず。孔明、ナポレヲンの輩、兵を部署して而して后ち悠々、或は飲み、或は眠る。左れど、此の悠々の徒は、反つて忙々の輩を走らすに餘りありき。蓋し制度宜しきが故なり。吾人つら〱現今基督教界の制度を見るに、既に大ひに不可なるものあり、將に大害を生ぜんとするものあり。今にして若し改ためずば、測る可らざるの流弊遠からずして汎濫せん。不肖門外の徒なりと雖ども、敢て當路の人に警告せずして止むと能はず。

十一。新佛教

佛教衰退の因緣甚はだ多し。左れど、其制度の宜しからざるも亦與かつて大ひに力あるが如し。而して其宜しからざる制度の中に就き、僧侶坊を守り半ば遊樂して自由に衣食する事、並びに出家大悟の人必らずしも坊守たるにあらざることなどは、其尤とも太甚しきものとなす。惟ふに、今の基督教にして此儘久しきに渡らば、遠からずして日本第二の新佛教を現ぜんとすらん。見よ、殷鑑すでに歐米の諸國にあり。舊教の僧侶が純乎たる佛僧に似たるはものかは、新教隆盛の英と米

とに於ても、既に其弊を熟し世人の憤慨を蒙むること多きにあらずや。我國の基督教と雖ども、亦遂に免かるゝことなけん。夫れ、今の各教會牧師なるものは、平素何事を爲すに忙がはしきか。中には、此問に答ふること能はず、否な決して忙がはしからずと申さるゝ人もあらん。左れど、其の忙はしき人にのみ就き、君は何によりて御多忙なりやと問はゞ、吾は毎日曜日の說教と、毎土曜日の祈禱と、訪問と、傳道とによりて忙はしと答へらるゝなるべし。扨て、此等の方法は、何如ほど信徒の信仰心を高くし、亦た何如ほど未信の徒を導びくことを得るかと云ふに、實際の結果は豫想外にあることを見ん。眞とに信仰に進むものは、大抵說教に由るにあらず、多くは自發啓悟して豁然大ひに悔改するの機あるに原ひす。導びかるゝものも、教會内の熱心なる平信徒もしくは、長老執事などの德行によれり。牧師に說かれたるが故に導びかると云ふものは、左程多からず。又た、土曜日の祈禱は必らずしも牧師たる人の出席を必要とするにもあらず、訪問の事の如きは、前節に於てすでに其面白からぬ事を述べ置たり。左れば、今の牧師あるは無きに優るが如けれど、信徒の集會に必らずしも一人の牧師を要すとは言ふ可らず。

但し、教會を今日の如き制度と爲し置ん限りは、是非とも一教會一人の牧師なかる可らず。何となれば今の信徒となると云ふことは、神學上の說を研究すると云ふの意義に異ならず、此時に當つては、神學の講釋師を要すること勿論也。又、今の道を修むと云ふことは、毎日曜日、神學上の辨論講解を傍聽すると云ふの意義に異ならず、此時に當つては、神學の學理を承知する者を必要するは言迄もなし。其他、教會の要務に、洗禮晩餐など云ふことあり、而して之を執行するには是非とも牧師を要すと定め置んに、此時に當つては亦神學校の卒業生同樣の人を必要すること當然なり。夫れ、今の教會は如此く神學に大關係を有せり、左れば神學の理はりを承知せる者、若くは其資格を有する者を第一の重役とし、之によりて万事を料理せずんばある可らず。故に、今の教會に如此き牧師一人づゝを要すると云ふは論なきことなり。左れど、教會は素と神學の講談所にあらず、信徒の務めは、神學の學理を知識することにあらず、人を牧し人を化するの德は神學の學力にあらざることを知るに於ては、須らく先づ今の教會なるもの丶性質を一變すべき也、

而して此の一變したる教會に於ては、必らずしも各一人の牧師を要せざる也。其德あるもの出づれば則はち牧師となる、然らずんば、必らずしも之を置くとを要せざるに至らん。

十二。　理想教會

神を拜するには、靈と眞とを以てすべし、此の山彼の山にてと言ふと莫れ。故に、目に見ゆる教會にて、眞との禮拜を爲し、木にて造りたる會堂を完全なる靈の集り場所となさんとするは抑そも難し。人もし、言ふが如き靈なる教會を造らんとを欲すれば、先づ宗派、何教會など云へる隔離を悉とく打破し、基督の徒弟は皆な其足下に同列同拜せずんばある可らず。而して今の教會は素より斯の如きものにあらず。亦中々にかゝるものと爲すべき望みあらず。

吾人が、靈の教會に求むる所ろは、甚はだ重く且つ嚴そかなり。而して之を目に見ゆる宗派ある名を異にしたるなどの教會に就きて求むべきにはあらず。左れば、吾人が眞誠の教會に望む所ろの至つて嚴重なるに隨がひ、世の教會に望む所ろは自づから輕く且つ極めて自由あり。何んとなれば、之より外に望む所ろを得がたしと勘辨するを以ての故なり。世の教會は、一面に於ては道を修むるの集會場となり、他の一面に於ては、善を行ふの本陣となるとを要す。所云る、道を修むるとは、基督に隨がひて大道に進むの義なり。孔丘を師とするものは漢學者の塾に集まるべし、基督を師とするものは即はち教會に集まるなり。扨て、基督に隨がひて道を修むるは、信徒一生の修業なり、初めより之を一刻一日の事に求むべきにあらず。故に、教會に入るの資格は極めて自由にし、入つて后ち漸次に進步するの規則に爲し置くとを要す。惟ふに、神ありとなし、基督を先生となし、罪を悔ひて善に遷らんとを覺悟し、尋常明白の不德を犯さゞるものは、則はち、教會に入るとを得べし。孔丘の徒弟を孔門弟と云ふ如く、基督の徒弟を基督門弟（クリスチアン）と云ひ、教會に入るもの獨り善人なる如く思はず、善人は則はち何れの道にせよ修め學びて而して后ちに達すべきものと覺悟すべき也。

基督の教は、神を敬し、人を愛するにあり、故に其徒弟たらんもの、一面に於て神を敬するの修業を爲すと共に、亦た人を愛するの所作を爲さずんばある可らず。此の故に教會を本陣とし、之よりして、社會改良、博愛慈善、貧民救濟、病者看護などの、愛の仕事を行ふとを心掛くべし。其旨本誌第二

百五十二號に揭げたれば、今再たび言はず。

安息日は道を修むる爲めに聖別したる日あり（第二百九號參看）。此日會堂に集まり、朝たより夕べに至る迄で、會員大率ね團欒し、或時は合して神を賛美するの歌を唱し、或時は交も立ちて靜念自發する所ろの經驗を談じ、又或る時は、肅坐跪拜して祈禱をさゝげ、午后日麗らゝかに風和らかなれば、邊りの山林に五々三々手を携へて入り互ひに閑話し、もしくは、獨り寂然孤坐して沈思默禱し、或は再たび會して社會に對するの善事業に付き、其計畫を議するが如き、是れ吾人が理想する所ろの世に於ける見ゆる敎會の事なり。靈の敎會に至りては、固よりかゝる比ひにはあらず。

斯あらば、必らずしも牧師を要せず、否な要せざるにはあらず、今の如く制度の爲に之を要するにはあらず。左れど若し其德人を薰し、全會員悉とく之を尊崇するが如き人あらんには、衆皆な樂しみて之を推し、之に扶持して其敎談を聞くとを望みとすべし。此に至りて初めて牧師あり。

今の如く、給料の高下にさま〲の異論を生じ、將た牧師の方にて、何閒ならではと申込み、信徒の方にて其金を出すに面白からざる如き樣にてあらんに、牧師を置くとも、牧師得て何の牧するとかあらん。此外に會員は神學の講釋を聞くとも亦時々に大切なり。之には神學校の卒業生を好しとす。故に神學校の卒業生は、一科の學士として、折々所々に聘せられ講談すべし。信徒も時々之を聽て參考に供すべし。

汝等万國に行て福音を宣べ傳ふべしと。宣傳ふるとは亦た信徒世に對するの一大義務なり。之が爲には各敎會それ〲金を義捐し、傳道會社を設け、委員を公撰し、其傳道法を托するあどの事もあるべし。之には神學校の卒業生を多く要するともやあるべし。たとへば、敎師は師範學校の卒業生にて事足るに同じ、敎育者に至りては然らず。

十三。　日本の敎[illegible]

敎育は心理學應用の如し、故に人種と國とによりて敎育法を異にせざるを得ず。宗敎と云へる一大敎育の事亦如此し。學校監理法に於て、悉とくユダヤの遺風に倣ひ難しとせば、宗敎の敎制（眞理と云はず、敎え方と云ふ。敎旨ならず、敎制也耳）も亦た日本の特性を斟酌せずんばある可らず。而して、今の敎制は多くは西洋風を其儘に摸したる也。之を一變するの動機は、牧師が辭職すると、若くは自給するより初まる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜錄

想夫行

雲峯子

韻文の句調につきては近來竊かに考ふる所あり、而して未だ思想の一定するものあるなし、此想夫行は少しく過去の作なり、今採て讀むに不滿足の所多し、豈讀者に滿足を與へんと望まんや、只讀者を煩はすを謹で謝するのみ、餘何をか望まん。

其一

よる波の音のみきゝて海人がやに、
袖を絞るぞあはれありける。

世をばのがれつ山の奥に、　ふかく入りても松風の
ふく音たかくひゞくらん、　秋の夜寒に妻こふる
鹿のなく音もきこゆらん、　さればうき世を捨小舟
うきつ沈みつ鳰のうみの、　海人ともなりて暫し世を
渡らんものとさゝなみの、　堅田の浦にいほりして
靜けきつき日を送れども、　靜まりがたき物思ひに
ひるはひねもす泣くらし、　夜はよもすがら思ひ明す
こゝろの程のせつなれば、　渚によするしらなみは
ふせ屋の内に寄らねども、　袖をしぼらぬひまもなく
なげきけるこそ憐れなりけれ。

遠くのがれし世の中の、　たつきも今は知らなくに
志賀のみやこに枯れ殘る、　老木のさくら咲出でゝ
匂ふいろかに春を知り、　ありしむかしに大井川
清きながれに漕ぎ出でし、　龍頭鷁首の舟に侍り
落花の雪にまよひける、　榮華のゆめを現にて
思ひかへしてなげきけん、　のどけき野邊に打むれて
若菜つむ子のひなうたに、　堅田のうらを思ひたち
雲井のそらをゆく雁の、　ゆくえこひしとながめけん
春やたのしと世の人は、　霞のごとくうきたちて
くらしける日も獨りのみ、　いぶせき庵のかり住居
よその見るめも憐れなり、　かゞみの山の夕つく日
消ゆればやがて三井寺の、　鐘のひゞきもくれそめて
比叡の峯よりふきおろす、　身にしむ風に秋來ぬと
眼にこそ見えね白つゆの、　ひかりさやかに知りぬれば
わびしかりけんさらでしも、　秋としなれど世のなかの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ものゝ憐れを知るとこそ、
雁のなく音をきゝくらし、
ゆめも結ばであけぬれば、
柴のとぼそにふきたちて、
かげもしづまる夕まぐれ、
さびしかりけめ紅葉ばの、
錦きなして遊びける、
かたしくさまとありにけり、
さゆる嵐にふゆをしり、
わが夫いかに在わすらん、
とくゆかましを世の中は、
悲しむ時も多かりけん、
杉のはやしのほとゝぎす、
思ひみるだにはらわたも、
かくて過しもふたとせの、
鳰の海原日はくれて、
見えつる方や海人小舟、
堅田のうらはあれかとよ、

人は云ひけれ海人が庵に
きぬたの音をば身にしめつ
稻葉を渡る風さむく、
遠山の端にゐる雲の
ひとりながめしこゝろこそ
色づくころはあらし山に
身にしあれどもあらざぬを
ひらの高ねに雪ふりて
北山のはをながめても
かりのつばさもあるならば
こゝろならぬぞ口惜しと
夏も來ぬれば逢ふ坂の
あひがたきをや恨むらんと
ちゞに碎くる心地しけん
月日とこそはなりにけれ」
海人のいざり火數しげく
集ふなるらん我訪はん
いざ急がんと沖つ舟

こぎにし人や誰なりけん、
里に近しといさみけり、
なみはさはげどこゝろにも、
かたへに見へし沖つしまも、
陸地や近きから崎の、
海人がふせやの燈は、
殘れる夜半にさゝあみや、
折しも消ゆるむらくもの、
比叡よりかけて波路まで、
波よる岸に舟うけて、
月の光りにうかゞへば、
ものゝふとこそ見えにけれ、
やがて波間にこぎいでゝ、
暫しいそべにたゝずみて、
首をあげてうちながめ、
あらいそづたひに進みつゝ、
ふせやをさしていそぎけるかな。

見なれし山やなつかしき
比良山おろしふくからに
かゝらぬさまぞいさましき
遠く見なして漕ぐほどに
松もほの〴〵あらはれぬ
磯邊のさとにかすかにも
かたゝの浦につきにけり
あとにかゞやく月かげに
いとさやかにも見えにけり
おりたつ人の面かげを
舟人ならじまさしくも
舟に殘れる舟人は
かへりしあとに武士は
もの思ひつゝありけるが
月にゆくえや見とめけん
世をばはなれて住む海人の

女學生の理想

府下の或る女學校にて、此頃ろ、上中下の三組の生徒に、其望みとする所ろを問ひ、即席に答へしめたるとあり、今ま文章を略し、文字の誤を正し、大意を抜き、同じきは一つに合せ、左に大概を示す。

（下の組）高等小學卒業后一ケ月生徒 年齢平均十三乃至十六歳程

問。何事か最とも樂しく、面白く、且つ望ましき乎。

（一）。家に在る時は父母兄弟と睦しくし學校にて教を受しとを話し、又母より色々の御話をきくとが、第一の樂しみです。又、學校で和文、習字、和讀、教育學などを習ふときが、一番面白くわります又朋友と互ひに親密に交はるとが樂しみです。成人の后は父母兄又教師に恩を報じ、此上とも倦まず孝行をしたく思ひます。

（二）。私は勉強した后ち遊ぶ事、土曜日に保證人の所へ行く事、を樂しみとす。又望みは、此學校を早く卒業する事とす。

（三）。第一には毎日々々能く勉强して夕方になつて庭に出て多くの友人と遊ぶのが實に樂しく思ひます。又た成長して後ちの望みは、學校にて能く勉强し立派な人となりたいと思ふ。

（四）。私は毎日此樣に學校に居りまして勉强致す事を大變に樂しく思ひます、そうで御座ひますけれども私が思ひますには人を愛したり人に親切を成す時ほど樂しいとは無いと思ひます、私は人を愛して樂しみを持たいと思ひますけれども、中々人を愛する事は六かしいとで、愛そうとすれば直ぐ惡魔が來て愛する事を止めさせます、其時に惡魔を取出して自分の思ふた樣に親切を遂げた時は、實に樂しう御座います。又皆さんと御一同に集まりまして親しく御話しを致す時も樂しう御座います。又皆さんと食事の后に學校の外へ出て遊歩する時の樂しい事。私は今ま何に付けても樂しくないものはわりません。けれども但だ其中に悪しきと丈けは樂しくわりません。私たとい賤しき身とは云へ、神の子となつた上は、どうかして早く信仰が高く成り愛に富むとが出來て此學校を出で古里に歸り兩親を始め其他の人を善き道に導びき親しく一日を暮したら、どんなにか樂しきとだろうと思います。又私しの樣な身では迚も世の中に出で働らくとは出來ませんから、幾分なりとも家の内で世

の中の爲になる樣力を盡して子供を教育するやうに成りたう御坐います。たゞ〳〵善良ある人となりたう存じます。

（五。）每日熱心に勉強した后には朋友と睦まじく交はり遊び學校に在りては過ちなく、家に在りても過ちなく、兩親兄弟の愉快なる顏を見て愉快を感じると、後來の益を爲す爲め高尙なる話を聞く事、家族不和なく樂しく一日を終ると、是れ私の重なる樂しみなり、時に因りては花見に行くとも隨分樂しみなり、未だ澤山あれども書するに足らず。后來の望みは、良妻賢母となり、母たるものゝ權利と教育とを以て子童を善道に導びき、其子成長の后は、國に忠を盡し最大なる功を顯はし名を擧ぐるにあり。

（六。）一番面白きは、第一に武藝、第二に音樂、第三に物見する事。望ましきとは種々あれども、今は只だ涙ばかりにて、實の望を得ると迄には心も定まらず。又學科が善く出來人より何事もまさるとを第一の樂しみとなす。

（七。）私の樂しみは種々ありますが、第一に樂しいと思ひますは、善を爲し人の困難を救ひ又貧民などを救ひ親に孝に弟妹を愛し兄姉に能く事へ朋友に信にして女子の女子たる道を守るのが第一の樂しみにて、第一に面白く思ふとは每日學校に行き諸姉と共に同じ教場に於て種々の事を研究すると、又第一の望みは、惡に陷いらざるやう、人のあなどりを受けざるやう、女子の女子たる道を守るとが出來るとを望む。

（八。）每日學校に來りて熱心に學問を學び家に歸りて音樂を習ふとを樂しみとす。面白きとは物見遊山にゆきて遊び戲むるゝとを面白しとす。私の望みは、今の內能く勉強して大人となりて子供を能く教育し、親を大切にし、家事を能く修め、廣く貴人と交際し、能き人となるとを望みとす。

（九。）私が思ひますに、最も樂しきとは、兄弟姉妹若くは親友と互ひに熱心に勉強したあとで、庭又は公園にでも行き、互ひに手を引き合ひ聖歌などを歌ひながら、老たる常盤木の下、又は今をさかりと咲き染めたる花にさえづる鳥の鳴く音をきゝ面白きお話しなどをする事が最とも樂しく且つ面白きとと思ひます。成長してからの望みは、父母にらくをさせ、自身が出來る丈け我子に善き教育を與へ、我國の爲めに子供が役に立つ樣になるやうにする程望ましきとは

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ありません。

（十）。第一に望む所ろは、我子をして心の美くしき立派なる人に爲らしむるを第一の望みと致します、故に日々學校に到りて師の君に私が身の立派になるやうに習ひ居ります。

（十一）。凡そ人となつて樂しみのない者はありません、私の第一の樂しみは、天地にましいます神に仕へ、常に神の御名を賛め榮光により汚れたる身を淸められたるとは一番に樂しく御座います。第二は今ま學校に在りて苦もなく心配も無くして日夜勉強に他事なき此れ第二の樂しみで御座います。扨て面白きと云ふとは、世界に英名なる人の傳記や其人等が大事業を成せしそのお話をきくとは、面白く御座いますし、又貧窮の人をあわれむとも面白く御座います。后來の望みと云ふは、國家に有益なる人物をつくり出し、良妻賢母となるとで御座います。

（十二）。第一にべんきよしてあとであそぶのが一ばんをもしろふ御座います。をゝきくなつての望みはべんきようしたのち父母をらくにさせて暮すのが第一の望みです。

（十三）。私供の樂しみは友達等と遊歩しながら雜談をいたすとと先生方より御話を承はる事、且つ教育を受け居る事、お話の中にも教育學は氣も引立ち誠に樂しく承わり居候、子供の遊で居るをあやすのが面白く、しけん前に勉強いたすのは心配もあれども誠に面白く、親しき友達と互ひに討論いたすのが第一面白く御座候、私の望は當校に於て充分に教育を受け能く人を教育する丈けの力をもちたきと、且つ一家をよく修め恥かしからぬ女子となりたき事。

（此他十六人の答は、大抵右十三の内の一に似たり。）

現世の陰府、シベリアの眞狀（中）

犯罪者は何如なる人ぞと問ふに

「余の見る所を以てすれば國事犯の罪人は多くは上等社會の者にして法律家あり、醫師あり、學生あり、此等の者は男子と等しく女子の爲めに一身を獻ぐるを厭はざるが如し」、

結婚の事は如何、

聞く所によればかの流謫せられしものゝ間には結婚を堅く守らざるやに覺ゆ、君が是に對するの意見を問ふ。さてとよ此事につきて、實情を知る所の人より度々聞きぬ、殊に或青年

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の詩人より精しく告げられぬ、詩人眼中に涙を流して云へり、實に悲しむべき事多し、青年妙齢にして才氣あり、鵬程萬里の志望を抱くの女子、聖ピーターズボルグ、モスカウ、トゥーラ等に、彼等の兄弟と伴ふて出で、學校に入らんとす、そは女子醫學校なるもの是等の大都會にあり、其外大學に次ぐ程の女學校もあればなり、入費を節せんが爲めか、是等の女學生は五六人相集りて一家を借り受け、(其兄弟も同居す)室を分つて住み、食事の時は相集うて卓を同ふす、邪智に富み、惡推を逞ふし、教育てふ事に反對する所の警官等は斯る有爲の青年を見て「彼等は斯く同居すべからず」といふの口實を以て、他に確然たる證跡もなきに、彼等を疑ひ、亦捕縛するに至る、青年の男子は高尚なる理想を有し、之を成すに熱心なれば決して不潔なる心事を抱くの遑なし、如何となれば彼等の先進者が多く此理想を遂げんと欲し、遂ぐる能はざりしを思ひ、更らに之を成功せんと欲するの心切なればなり。此處に集る所の人々は正式に依て結婚を爲さゞる人多し、蓋し彼等が團結するは政事上の運動を爲さんと欲するが故にして、他に希望する所なければなり、されど獨身の生涯を送くるは露國の法律にて禁ずるが故に彼等は結婚せりと公言し、團結の人々は互ひに之を證す、結婚せしものにもあれ、せざるものにもあれ、男女間の風儀清潔なる事、世界中シベリアの如き所なかるべし。されど今試みに彼等の眞狀を想へ、十八九歲の少女端なく警官の嫌疑に觸れて寒天凍地に流竄せらるゝ事を、彼等は多く警官の看守を受くるものなり。一女嘗て竊かに家を脫して其友に遇ひ、歸途不幸にも警官の目に觸れ、遂に罰せらるゝ事とはなりにけり。斯る場合に於ては他に救濟の道あるなし、豈憐むべきものならずや、是をシベリアに於ける婦人狀體の概略とす。

女子の保護者

となつて斯る警官の壓制より免れしむる人なきや。否なきにあらず、若警吏にして女子に對し、不敬不尊の處置ある時は男子は生命をも惜まず、警吏に復仇せんとす、されば警吏が女子を待遇する事自ら公正なり、然し是は上等社會の女子につきて云へる事なり、年々シベリア地方に流竄せらるゝ罪人は一万六千より二万一千人程にして之を二種に分を得べし。即ち一は通常法律の罪人にして獄に投ぜられ、流刑に處せら

るべき人〳〵なり他は即ち政治上の罪人にして牢獄に繋がるべき程の罪なき者なり、然し以上の流人中政治上の罪人は一年に僅か四百人に過ぎず、

女子にして竊盜、人殺等をなせし者多く囚徒の中にあるや、最近發布の統計表によれば合衆國に於ては五万の罪人中女子は只五千あるのみ、之を見れば露國に於ても女子の罪人左程多からじと思はる、如何。ケンナン氏答へて曰く男子にして罪を犯し、シベリヤに逐竄せらるゝや、其妻にして之と共に行かんと望む者多し、然るに女子若し流刑せらるゝとも其良人にして共に行く者甚だ稀なり、是男子が女子に對して親切ならざるが故に非ず、露國の情態に於て當に然るべき事あり、蓋し男子はシベリヤに於て刑期終ふれば他の殖民地に移住し、生涯歸郷せざるを常とす、されば良人に頼て生活する所の女子は止を得ず良人と共に寒地に行くあり、何となれば露國に於ては生計を營む事難くして農業を爲す者の如きは夏時氣候暖かなる時耕作につとめ、風寒く地氷るの冬時は妻子を殘し、父母に別れて遠く都會の地に至り、製造塲に入り、勞働を爲し以て少しの賃金を得、生活の助けをなす者なればなり。

晩近三年間
米國婦人の大進歩　（其三）

以上は是大体につきて云へるものなるが、妾の知る所にて、尙精細なる事を報ずるを得。シカゴなる婦人禁酒會に於て發兌する報告書の部數は、一年に一億二千万より一億二千五百万部に至るといふ。而して本會に關する凡ての事は。女子皆之を爲し、事務長はラストール夫人なり。

マテルダ、カース夫人あり、慈善博愛に富むの女子を率ひ、シカゴ府に一大堂を建てんとす、其經費一百十萬弗なり、是美をあらはし壯を誇らんが爲めに非ず、只之を用ひて慈善事業を擴張し、社會を改良せんとするのみ、此外各地の婦人會々員は主もなる都會に這種の建築を爲さんと計畫中なり。女子の手によつて發兌せらるゝ所の新聞雜誌にして第一流に位するもの多し、ニウヨークにメーリー、セーマー孃あり、ボストン府にウーマンス、ヂヨルナルあり、ワシントン府にウーマンス、トライビユーンあり、シカゴにユニチン、シグナルあり、亦女界進歩の先導者たるホーム、メーカーあり、豈壯ならずや。

近來ゴサムに於て女子が政治學研究會を創設し、並に婦人衞生會を置けり、女醫師にして國立病院に入る事を公許せられ給料を得て勤むる者多し、斯く國法にて認許せる所合衆國中に數州あり、要之に過去三年間に於て女性保護の爲めに制定せられし法律多く女子は之が爲めに財產に於て或は子女の事に於て一方ならぬ權利を得たりといふ可し、之に依て道德頽廢せる女界及び家庭に於て大改良を行ひ得べきなり。

シカゴ府に於て公私立諸學校の監督に任じ、且つ市中の檢査官たり、其他社會改良及び政治上の集會に於て女子を主要の位置に置くもの多し、共和黨の女子は既に一の倶樂部を組織するに至れり、民政黨に於て斯種の會合なきは時世と共に進歩せざるものといふ可し、合衆國政府に於て女子の中より二人の委員を派出し、萬國巡回を爲さしめんとし、其委員撰定につき我等が會合せしは實に歷史上未聞の擧事なりといふ可し、而して委員等は殆んど十週間を經て世界を一週せり是亦女界の進歩として見るべき一事なり。

近來各地よりの報によれば女子の爲めに喜こぶべき事多し、ニウヨークに於てウヤコビー女史及びアグニウ夫人の如き人々が有名なる法律博士エンマ、ケムピン氏と一致して女子をして高等敎育を受くるの便を得せしめんと奔走するあり、バルチモーアに於てはガレツト孃の盡力に依てジヨンス、ホプキンス大學に女子の入學を許さん事を請願するあり、過般公立學校敎師の集會に於ては女子を副會長となせり萬國日曜學校委員會に於ても然り、基督敎獎勵會に於ては女子と男子を同等の位置に在つて働き、マサチユーセツツ州の婦人撰擧權會に於てホリヨーク大學卒業生の代表者なる女子二人出席し論辨の末遂に同大學をして男女共に入校せしむる事に決せり其他舊習に泥み最も古風を守る所の學校に於てすら旣に女子が自由に出入するを許すに至れり、誠に著しき進歩といふ可し。

批評

○猿面冠者　　撫象子

美妙齋主人近頃ろ切りに解剖的小說を著はす、此度び春陽堂より出版したる猿面冠者の如き又其一つにてあるべし、左れど此は餘りに淺々し。先づ秀吉獨語の句調としては、何如にも力弱く、斷えて豁達のおと見へず。且つ彼は如何にも狡猾なるに相違なし、左れど亦た中々に眞實なる所ろあり、其の長上に仕へたる覺悟必らずしも陰險のみにあらず、下々に與ふるの覺悟倘更に心廣ろき所ろはあるなり。山陽彼を論じて彼が大出世の祕訣は即はち此の宏量にありとせり、惟ふに能く彼を知るの言歟。美妙齋が筆毫も此邊に入らず、能く此の奇傑の心事を開張すと云ふ可らず。而して、猿面冠者が后の半生は一の大山師たるのみ、而も、心氣空濶にして、英雄の資大安心の躰を得、必らずしも成敗利鈍、生死榮枯に局促せず、喩へば放醉して天地を呑吐するが如き狀にて、万事を一六勝負に全委するの豪量ありけり。故に、細かに彼を寫さんとするものは、彼に前后の二世あるとを示し、且つ彼に「自己を知りたる」の一紀元あるとを現はし、以て龍子燕變の機と、人心大發の跡とを明らかにするとを面白しとす。主人が一夜作りの思案、惜しい哉此に及ばず。

○十津川　　撫象子

學海居士が近著なり。吉野十津川の鄕士竹原八郎が娘八重子を主とし、大塔の宮、東のもの丶ふが暴威を討ち平らげんとし玉ふとを筋として、近來類ひなき雅致淸楚の歷史小說となる。女丈夫の膽を例しなき迄にきたえ上げ、才智拔群にして孔明を女子にしたらんほどの書樣せられたるは、居士が慣手段にして亦た其理想と聞く。婦女子の身に取りては優待一と方ならぬ心地すべし。文章のみやびやかなるは、近頃ろ多く見ず、宛がら古文を讀む心地す。居士が獨り得たる筆法あれど、居士が文の中にても此は亦た格別なりと思はる。讀もて行き、最とも感ぜらる丶節、前中后に三つあり。第一、八重子が宮に送り參らせたる玉章と云ふもの丶措辭何たる秀妙ぞ、われこれを讀みてだに、紙上の佳人にほれ〲する心地す。第二。几張の前、燈台の傍はら、たき物の香やかしく、衣の音艶なる音を發する際み、多年の思ひ逹して、武情一變する新

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

床の景色、筆力一層高尚にして、觀念甚はだ清らかなり、今の若年小說家が、戀を寫さんとして人を獸にすると同日の比にあらず。第三、結末の二句尤もよし、

宮はしばらく御直衣の袖を顏に當て御淚に咽ばせ玉ひ、ややありて又、やよ重實、八重子と吉野に別れしとき、かれが心を知りたるは、まろ一人にてありしぞかし。

通篇文章特に佳、趣向亦可らずとせず。小說として見んに種々の言ひ草はありと云へど、居士が著作中、わが最とも感じたるは即はち此れなり。插畫の第二面、永洗氏の揮毫甚はだ力あり、左れど、本文の意に違ひ、開卷第一先づ讀むもの丶意中之と云ふ想像を爲させつるに飜然相反す。遺り惜しきが如く、亦た思はせ風にてあるが如し。到底、畫の能く人を動かしつるを佳とす。

海外女學

(1) "Life of Harriet Beecher Stowe" by Mrs. Sarah a Tooley. (Sampson Low, Martson' & Co).

(2) "Miss Pringle's Pearls." by Mrs. G. Linnaeus Banks. (Hutchinson & Co).

(3) "The Honourable Miss." by L. J. Meadle. (Methuen & Co).

小說

マイルス、スタンヂッシユ戀

第三回　意中人の使命（上）

愛山逸民

斯て強き意志は其情を制しアルデンは其使命を帶びて家を出で邑の巷路を過ぎて森の中に去りぬ、此靜かなる森林には靑雀及びコマ鳥が茂れる木の間に恰も空中に懸在する綠の庭を有する平和、氣樂、愛情自由に滿たる蜃氣市とも云べき彼等の都府(巢を云ふ)を打建しぞ見ら。當りは靜寂なれ共彼の心中は擾亂と爭鬪なりけり、戀と友誼とは其中に戰て各々彼を排發し其狀猶アチコチに押付られ、突やられながら沈んとする舟のゆすらる丶度毎に恐しき、無慈悲なる海波をそ丶ぎかけらる丶如し、彼は痛歎して叫べり余は悉く之を棄ざる可らざる乎、余が喜悅も希望も妄想も悉く之を棄ざる可らざる乎、余が心中に愛せし者、祈念せし者、崇拜せし者は此なりし乎、余が嚴冬に海を越へて寂寞たる新英蘭の海岸に日影を追ひ來りしものは此が爲なりしか(英國より見れば米洲は日出處の國なり故に云ふ)誠に心こそ甲斐なき者なれ、其腐敗の深淵より蒸發氣の如く霧の如き情の

天怪は出るなりけり、か丶る天怪はたとへ光の天使の如く見ゆるとも實は「サタン」の誘惑のみ、今總て明かになれり余は確に之を感じ之を見たり、是神の手たるなり、神の怒の手は余が上に横はれり蓋余が情慾に事ること甚しく無暗に「アスタセス」を尊み「バアル」の惡神に事たる祕謎なるべし、此余が負ふべき十字架なり、余が罪と其速かなる應報なりと。

プリマウスのジヨン、アルデンは其使命を帶ながら森を過ぎ行き、やがて小河を渡りしに淺瀬の水はさはげり、彼は歩みながら彼の周圍に咲き亂れ怪しきまでに芳しき香を以て空中に充せ、宛がら友にはぐれて葉陰にまどろみぬる衆兒にも譬ふべき五月花を摘集めて曰へり清敎徒の花、清敎徒の處女の摸型、謙遜、質撲、優麗なるプリスキラ孃の眞個の摸型なるかな、余は之を彼女に贈るべし、プリマウスの五月花なるプリスキラ孃に贈るべし、此花若しうつろひ行んときは之を贈りし主の心の如く彼女に默然の譯辭をばさ丶やきなん。斯くしてジヨン、アルデンはプリマウスの森を通りて彼の使命を帶つ丶行けり、やがて廣濶なる地に出丶海面をば眺むるに舟は見へず、陰氣なるつめたき東風のかなしげに吹くめり、只見れば新規に造りたる家と牧地に勞する人のあり、戸に近くなるま丶にプリスキラが音樂の如き聲して詩篇百篇をば歌ふを聞ぬ、これは清敎徒の大聖歌にて、聲の樣は昔しルーテルが詩篇作者の神聖なる詞を諷詠し神の惠も多くの人々をなぐさめしと云音樂に似通ひたり、彼は戸を推して處女の姿を見たり、彼女は紡車の傍に坐り居りしが揃へたる羊毛は雪の如く彼女の膝に堆かく、彼女の素手は健啖なる錘を食い、彼女の脚は機を踏みて紡車を廻しぬ、彼女の裳の上に用ゐ古せしアインスウヲルスの詩篇は開かれて横はれり、コハアムステルダム版行にして文と譜と共に載たり固より粗末に彫刻せられつればとがりたる音譜は墓石にはひまはる蔓艸の如き詩句の傍らに黒々と釣る下る樣に記されてあり。彼女は寂寥たる森の中に小やかなる家を建て質素なるかざりをなせり、此家の美しきものは彼女の艶姿のみ、此家の富は彼女の躬のみ。今やアルデンの心上には身に染みてひや丶かになさけなく吹く風のごとく過にし時の念ひと其の使命の重さと苦しさとは突き進み來れり、渾ての夢は亡にけり、彼の爾後の生涯は恐ろし氣なる住む人もあき邸第のごとくなるべし、之を訪ふものは只丶盆

もあき悔恨、青白き哀しき顔色ならんのみ、されども彼は決然として獨語せり。たとひ其刄が生命の花の根を斷切るとも鋤に手をつけながら後を顧ることを勿れ、死者の墳墓にもせよ生人の火爐にもせよ必ず踏破すべし是ぞ神の意なれ、而して神の惠は永遠に續くべしと」

彼は家に入りぬ、紡車の響と唱歌とは遽かに止ぬ、プリスキラは彼の步聲を聽きつけて身を起し入來れる彼を迎へ歡迎のしるしに己が手を彼に與へて言へり。妾は往來の步聲を聞しとき既に御身あるを推しぬ、並妾は歌ひつゝ、紡ぎつゝありし間にも御身のとを思ひ居ければなりと彼は處女の口より發せし神聖なる詩篇の中に彼を懷ふの念を混ぜしとを喜びしかども無作法に瘖の如く默然として彼女の前に立ち答の印として花を彼女に與へたり、とは一語も答ふべきすべを知らざりしが故なり、彼は猶記憶せり冬日初度の大雪の後、彼は村を出でたどり〳〵てよろこびながら入口の路を塞ぎたる積雪の中を通り足迹を後へに印して此家に入り來りしときプリスキラは彼の髮の雪だらけなるを見て太う笑爐邊に彼を誘ひて吹雪の時にだに彼女をば忘れざりしとを喜びわびしことのありき、若し爾時思を明しなば恐らくは無益ならざりしものを今は既に後れたり矣黃金に均しき瞬時は消うせぬ、彼は今こうじはてつゝ立てり、彼女に花を與へて答詞の代りとはなせり。

紫海の嵐　みさを

第二回

丸木もて柱となし、藁もて屋根を葺き、荒き壁の隙もる風肌を打ち、窓の板戶にあたる時雨の音寒げなり、とは臼杵の城内にあるべしとも見へぬ賤しき小屋、如何なる人の住ゐにや一人の武士あり、折々そのあたりを見廻はとは四人の牢なるか、いぶせき小屋の建てかた、堅からぬぞ訝かしき、內に二間あり、戶口に近き一間に一人の老武者あり、頰のあたりに茂る白髯は幾日剃らざりけん、钁鑠たる容貌內に憂ひあるが如し、大きくして鋭からぬ眼、眞面目なる額、堅く閉ぢたる口、是皆一個質實忠直の相を組成す、されど此屋のあるじとは見へず、寧ろ此屋を守る人、さらずば主人を守るの忠僕ならん、そも何故に斯の小屋には住むぞ。

今老武者なる人己が坐を立ち、次の一間に近づき、襖をも開かず「我君に物申さん、朝の祈りは終へ給ひしか」と手をつきて恭しく云ふにぞ、内より大人しき聲にて「はや終へぬ、云ふべき事とは何ぞ、疾く述べよ」と云ひぬ、武者は靜かに襖を開き、少し退きて坐す、奥に坐するは若武士、年のころ十七八色白くして鼻高く、額のかたち何となく賢こげなり、緑の黒髪を太く束ねて結ひあせる男髷りゝしく見ゆ、黄金作りの大小二振り坐右にあり、室中藏するもの只黒塗繪の机一脚と、そが上にある經書一卷のみ、寂しき室に孤棲して徒淋しさを覺えず、揚々自ら得たりとなす、快げなる若武士の風姿こそ怪しき事の限りなれ、つら〱其人となりを窺ひ、言語擧動を見ればまさしく普通の武士とは見えず、さりとて斯る賤しき住居を爲すも不思議、アヽそも如何ある人にやあらん、如何あれば此處には住むらん。

老ひたる武士何をか云はんとしてはやくも涙せきくる樣子、漸く聲を發し、「謹みて我君に申さん、如何に君が異國の宗敎を信じ給ふ故なればとて昔のさまに引かへて藥小屋住居とは何事ぞ、思ひかへせば三月の前までいと高き殿上に居給ひ、金銀にてちりばめたる所、許多の人の候ひて忠實につかへけり、出づるに輿あり、出入するに人の送迎するあり、望む事として成らぬはなく、物として得られぬはなかりき、今より二歳も過ぎなば幾百万石を領し給ふ君ならずや、今は如何に、衣食だに足らはぬ所多く、軒もる月かげを光りとたのみ、隙もる霧に袖を絞り、侍候の武士とて某一人のみ、如何に世へはかなしとて斯くも零落し給ふとは悲しみても餘りあり、不忠の臣ありて君をば斯くはならせ給ひしかと身を顧みる毎に尺腸寸斷するばかりなり、君は世の財産をばたのまじとこそ思ひ玉はめ、某は君につかふる身とありて如何でか昔にかへるよしもがなと日夜心を碎かぬ時ぞなき、君願くは某の心を思ひ見給へ」と云ひも終らず打ち仰ぎ手を双眼に加ふ、忠心もて眞に主君の爲めに泣くを見れば何人か憐れと思はざらん「我身の上を深く案ずる汝が心底いと頼母しくぞ思はるゝ、さは云へ我眞心より御神を信じ、世をばたのまず、只管永遠の救濟を得んと望むのみ、世の財寶、位階如何に貴しとも我靈生にかへんや、たとひ此屋に世を終ふるも、幾許の困苦我身に迫り來るとも我は恐れじ、斯くてあらば我神常に我を慰め給ふ

上天皇帝豈我を捨て給はんや、これよりさき我爲めを思はゝ汝も疾く神につかへ、我を苦難に遇はしむる我父及び祖母君の爲めに禱れかし、我拜みまつる主は昔し十字架上にいとも賤しき刑罰に處せられ給ひし時淋漓たる鮮血兩脇より滴り、氣息僅かに殘る頃、熱涙を揮つて敵の爲めに祈り給ひしとなん聞く、我もその御心に傚はまし、弱き心の悲しさにやゝもすれば人を怨み、敵を憎まんとす、こを思へば未だ嘗て我力の弱きを嘆き、上帝の救護を乞はずんばあらず」と云ふ「されば詮方なし」と云ひて一禮なし、襖を閉ぢて老武者は己が坐にぞ立ち歸りける。

英雄雲の如く出で、各一方に割據し、虎驤龍視互ひに相睥睨す、織田信長中國に起り、疾風急雷向ふ所敵なき有樣に人々安き心もなし、天下衆目の注ぐ所なる織田公にして既に西敎を重じ、至る所に神社佛寺を破毀して殘すなし、上既に奉ず下之より甚しきは理の然らしむる所なり、されば國中西敎に歸するもの日に多きを加ふ、殊に九州は西敎の關門とも云つべく從つて信ずるものも多し。

時に九州の豪雄二人、一方には大友義鎭あり、兩肥二豐に據る、他方には島津義久あり、薩隅に據つて旗を擧ぐ、兩雄機を得て相呑噬せんとすれども未だ時至らず、九州平和なり義鎭疾くより西敎の信ずべきを悟り、其の臣下と親屬の人々にすゝめ、先進の信徒及び宣敎師を己が家に召して敎を說かしめぬ、ものゝ道理を聞き分け、正邪を分つ事の速きは靑年に如くものなし、義鎭の次男は敎を信ぜし事一家中にて最初なりき、此外尙信徒大友家に多くなりぬ。

大友義親と云へるは國主大友家の功臣にして今は臼杵の領主なり、其姉なる人國主義鎭に嫁ぎしの故を以て君臣の係はりあるのみならず、義兄弟たり、國主は西敎を好み、佛徒を愛せず、頻りに西敎とその宣敎師に保護を加へてその傳播を奬勵するは實に感ずべき明君にこそ。

義親は三ヶ國の領主にして九州にありては有力の一諸侯なり、歲入三万貫、富貴他の諸侯に勝る、一度呼べば臣下三万人手足の如く應ず、されど嗣子なく常に之を求むる事切なり、嘗て京都に在りて公卿の一子、風采甚だ其意に適するものあるを見て養ふて子となせり、英才秀敏實に衆人と異る所あり、義親深く之を愛す、名を親虎と命ず、親虎養はれて九州に

至れる頃國主大友氏頻りに西教の可なるを說きければ義親もしか思ひ、親虎を宣教師に托し、教を說かん事を乞へり、もとより賢こきさながれば親虎は速かに西教を學び、よき信徒となれりけり、さて義親の姉即ち國主の夫人は深く佛教を信奉せしかば其親戚に西教徒の出でん事を大ひに嫌忌し、其子及び親虎をして教を捨てしめんとせり、されば義親も姉の意を迎へ、其養子親虎をして教を信ずるを止めしめんとするに至れり、これぞ一小屋に若武士が幽閉せられて道の爲めに苦難を嘗る原因なる、精しき理由は編を新めて述べまし。

兒籃

蛇のはなし

ゆき子

暫らく御目にかゝらなかつたら皆さんが大へん大きくおなりなさいましたネ、今私が面白いお話しをしてあげますからネおとなしくして聞くんですよ、イーカネ、よく御聞きなさいよ靜かにして。

昔ある所にわんぱくの子がありました、始終外の小兒を泣かせたり、虫けらを殺したりして樂んで居ました、ある日の事でした、何時もの樣に庭に出て遊んで居ましたら庫の傍の垣ねから一ツの蛇が這ひ出しました、小兒は喜んで其そばに行き、手に持つて居た棒でいきなり頭を打ちました、小さい蛇でしたから打たれて暫らく動きませんでした小兒は蛇を打つた時眼に砂がはいりましたから直ぐ手を以て抑へました、その内に蛇は生がついてノロ〳〵動き出し、穴の中にはいりました、蛇を殺しかけて殺さずに置くと祟るといふ事を人が云ひますから此小兒は蛇の頭に小さな疵をつけてそのまゝ置てはわるいかと思ひましたがモー穴にはいつてどうも仕方がありませんでした。

月日の過るは早いもので此小兒は何時の間にか老人になつて昔の事を人に話して聞かせる樣になりました、或日孫をつれて裏の山をうろついて居ますと道の傍に大きな蛇が死で居ました、誰が殺したのか珍しい大きな蛇でしたから此老人は立止つて見ますと頭に大きな疵がありました、よく見るとこれは新しい疵ではない、それから考へて見ると此老人が小兒の時今より七十年許り昔打つた蛇といふ事が分りました、蛇が大きくなつたに從つて疵も大きくなりました、人間も皆さんの樣に幼き時惡い癖を取らないと大人になつて大變ですよ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文學

池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

花

見れど／＼あかぬ山べの花ざかり家路思はで一夜やどらん
（春の）（暮る丶もしらで日は出にけり）
峯子

春雨の名殘のつゆもなつかしくぬれたる花に朝風ぞ吹く
（かつちりて）
前島むつ子

春の夜は枡にのこれど吉野山さやかにみゆる花の色かな
（あらし山）
市村高彥

評吉野山の花は松にはまじらざるべし點者は未見されど嵐山の方宜しかるべし
八千代

櫻花散りて浮べる古池におぼろ月夜のかげも見えつゝ
山口つる子

春山家

春來れど人も訪ひきぬさびしさを花に忘るゝ山本の里
（の日はさふなき）
神谷三和子

春旅

鶯の聲に旅ねの夢さめて朝日まばゆく匂ふ梅か香そする
日高みつ子

咲く花にうかれて行きつ遙かる旅路も近き心地こそすれ
（みれ）
子

花鳥を友と思ひて春の日にうきたひしらでたどり行かな
（あら）（路もしらぬ也けり）

長閑なる心の駒にまかせてか道を遠と思はざりけり
（つゝ）（き旅路もしらぬ春かな）
前島まつ子

評者の心なし

○文學上の德義

ダルトマウス大學校の文學會に於て、エメルソンが少年學生に對し文學者の德義を演說したるとあり。實に文學者ほど責任の重くして而して之を投遣りにするとの甚はだしきものはあらじ。近來の小說家その材料に乏しきが故に、現今生存らふる人の實事を種として、人物をしつらへ、容赦なく無作法に他の秘密を曝露して顧みざるものあり。若し斯くして人の善德を顯揚するとせば、反りて賞むべき業なれど、か丶る小說家の常として只管ら弱點のみをほじり出し、醜汚を公けにして揚々得意たるの狀あるは、歎くべきとなり。神聖の文章に對して怪しからぬのみならず、人に對して不德中々の事にあらず、文士の道義に於て容赦す可らざるの所爲とす、たしかシャーロッテ、ブロンテなりしと覺ゆ、極めて強く此の惡弊を責めたるとあり。英國にても、サッカレーは特に此の不德ありしよしにて、心ある人の忌み嫌ふと尤とも甚はだし。米國にて彼の心好きイルビングの如き、亦時あつて此の過ちを爲せしかば其極親の友ベルブランク、之を棄て置きがたしとで太たく諫められたるとあり。今の日本の文士、歐米の大家小說家が長所に倣ずして反つて其惡所を先づ倣はんとす。深く戒しむべきことにぞある。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

笑ひ草

○安息日學校の敎師、いと肅然たる面色にて有がた氣に問ひけらく
諸君、諸君が罪を容されんとするには、先づ何事を爲すべきと思ひ玉ふ。
七八歲の幼なき娘、いと淡泊に、
先生、夫は第一、罪を犯すんでせう。

○秘密を隱したがる人ほど、秘密を聞たがる人はなし、かゝる人はたとへば吝嗇の金かしの如し、金を流通せんとして、無暗に金をかゝえ込む。

○年上の女、友人の新嫁を慰さめて云ふ、
アナタまあ、タッタ此間だ御婚姻を爲すつたヂャありませんか、夫れで今からソンナに泣て計り居らして、どうなさるの、エ。
目を泣はらし、鼻をたらし、チッ、チッと、しやくり泣す

大禮の明け朝

戀しきかも

婚后二月

あなたが

オ前が

る年まだ極めて若き新嫁、
アノ方はアンナとはちつとも思ひませんでしたヨ。ダッテ、此間だから國會の議員になるつて、大相競爭して居らつしやるんです、スルト御覽なさい、新聞であのわるく書くとを、あんな方とはちつとも思ひませんでした。

○北極旅行の人、歸國して話すやう、
僕は實に驚ろいたよ、北極地方は、百四十一日の間だ丸で夜だと聞て居たが、ホンニ左樣なので、實に困り切つたよ。僕はもう二度とアンナ所へ行たくない。
チヨロケン眉毛の、面白げな人、始終金を借りて、笑つて返しさうでない人、此の話を聞てホク〳〵喜こび、
ソリヤー甘い、僕は早速移住としやう。僕なら借金とりにかう言ふんだ。君どうぞ一晩まつて下さい、あすの朝來て下さいと。スルト五ケ月延びるよ。

○三太夫、三太夫、近う參れ、と召さるゝ殿樣あり。三太夫恐る〳〵出伺す。

婚后半歲　　一週年

コリヤ、三太夫、身供がシヤレを聞かしてやろふ程に、苦しうない、家來どもを皆な、之へ召べ。

ハーッと恐まりて下り、暫らくして皆々出伺、蜘蛛の如くはらばひ、蟹の如く平たくなる。殿さま、チホン〳〵と咳をなされ、

コヽに、山がある、とそう思へ。(臣下、ハーッ)。又、川があると、そう思へ。(臣下、ハーッ)。コヽに又白酒屋が通ると思へ。(ハーッ)。ソコデ、山川白酒とはどうぢや。三太夫、ドウヂヤをかしうあいか。三太夫(大きにおかしひ事に存し奉まつる)。家來ども、苦しうない、次に下つて、勝手に笑つたが好い。

家來一同、次に下る。三太夫、合圖をとり、一、二、三。

ワツ、ハ、、ハ。

○鐵道のレールが滑らかに車を走らすは、レールの間だが常に好い加減に隔たり居り、餘り遠くも亦餘り近くもなきが故にあり、人の交際また如此しと、交際官試補は言ふ。

○金を遣わじとならば、新聞を見ざるにあり、新聞は花や、寄席や、しばいや、相撲の才取を爲すと、老人は言へり。

隨感

直諫は一番鎗よりも難し

不希雄

いつはりのなき世なりせばいかばかり人の言の葉うれしからまじ」歎きし歌人我も同じ恨あり、妖桃窻下背花眠などと詩人の悲憤無理ならん、浮世は利巧便佞の濁塵の穢わりと知らば何れの時か無垢淸淨なる定境に至りぬらん、覺悟なき事どもなり。

却説こゝにお話しすべきは兼て皆さん文章軌範などにて管仲相於威公而覇于諸侯などで御馴染の支那齊の國威王といへる大名が、一伍の兵を勞せず、一寸の刃に血ぬらず、朝廷の上に安座しながら、燕趙韓魏の四國をば、朝貢せしめられしといふなる、一談柄にぞある。

そをいかにといふに威王の臣に鄒忌とて身の丈八尺にも餘り俊逸秀麗にて「振りかへり見ん」ばかりの美丈夫ありけり、或る日衣冠束帶整然としていかめしく出で立ちながら鏡を照らして打ながめ、襟裾とゝのへながら其妻に向ひ「御身の目よりして見ば我れの風采はあの徐公ぬしとはいかにぞや」と

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

尋ねければ妻はつく〲打守りさて事もなげに「良人、いかに徐公ぬしの及び玉ふべき、良人こそ齊國無雙の丈夫ならんは誰れ疑ひまひらすべき」と答へぬ。鄒忌は之を聞きて如何に思ひけん、亦妾に問ひにき、然るに妾も同じく答へて「いかで主公に及び玉はん」とて同じきことなれば鄒忌は思案し「げに城北の徐公こそ齊國中最も美々しきますらをなりけるは人のゆるすところなりけり、さるを妻のみか妾までもあの返答、いぶかしき限なりけり、人もがなと思ふ折しも賓人ありて音訪ふものありければ、すぐに招じて浮世話の序にかのことかさねて問ひければ、思ひきや又たしても同じ返辭なりけり。實にもやと迷ひける其翌日、故もなくして徐公音訪れぬ、思ふ節深く潜めて折々其風姿に目を注ぎければ、中々の丰神、自然と備る威風徳望人の瞻の空虚あらざりけり。もしやと起ちて鏡に向へば空たのみしたる事も今は早や仇となりぬ。さるをいかなれば訪ひ來る客人までもあの言合黙行かしと其夜の枕も安からず、右つ左いつ、ヤッと拍ちたる横手には「薄情てきや求むる心のありてけり」と悟れば晴れる迷ひの雲霧澄み渡る心の底の眞如の月こそさやかなりけり。明朝いち早く朝廷に出で威公に奏しけるは、臣誠に徐公の美に及び難きを信じ侍りぬ。さるを臣の妻は臣に私し、臣の妾は臣を畏れ、臣の客も爾臣に求むる處やありけん、おぞくも臣を徐公よりも美なりと媚びぬ。されば此の事より思ひ合すれば今齊の國千里の廣き中には、城壁砦塞百二十、かしづきぬる宮女侍臣誰れか王に私せざるものあるべき、朝廷の臣王を畏れ、四境の内人皆王に求めぬる者のみ、されば王の耳にひゞき王の目にうつるもの、いかで誠の聲ならん、いかで誠の色ならん、王の四方には壅蔽といへる厚き籬の密閉せりと云べけれ、と奏しければ、王いたく喜びてたゞちに、群臣吏民面のあたり王の過をいふものは上の賞、書を上りて諌むるものは中の賞、街談巷議せるものには下の賞を賜ふべきよし令を境内に傳へ玉ひければ門前さながら市をなしぬ。數ヶ月立ちければ間あるよふとなり歳を經てければ進むべき事なきに至りしとなん、されば四國の王だち仄かに之を聞き恐れを生じて直に齊に貢せるとかや。

時事

○西郷將來

老西郷は遂に來らず、左れど、若西郷は將に閣上に立んとす。吾人は喜んで、前主相を送るものにあらず、左れど次に來らんとする人に對しては、歡迎の意なきに非ず。

○「自由」新聞

一層の元氣を以て生れ出でたり、文章爛々として色めき、俠骨菱々たり、東北戰畧記今更のやうに新らし。

○宗敎界

佛徒の大會は何事に慨する所ろありてか、而して未だ其の果を見ず。基督敎會内亦やうやく多事ならんとす、思ふに今や盛衰流轉の機なり。

○モルトケ將軍

あゝゝ砲煙硝丸の間だの君子、今や逝けり。正しく戰爭を善解し、其眞德を説明したる唯一の將軍、今や逝けり。

○廢娼論者

大いに約する所ろあり、固く準備すと云ふ。

○國民兵學校

私立に於てかゝる校を見んとす、賀すべき事なり。校長は堀江芳介氏、所ろは府下本郷駒込にあり。

○貧民婦女學校

之も亦た私立日本婦人敎育會の手によりて成らんとす。呉々も喜こぶべき事あり。

○女壯士

女壯士とか云へる一派を、公けに組織せんとする輩ありときく。何たる怪報ぞ。婦女は今や沈々靜々として大ひに力を伸すべきの餘地多し、何を苦しみてか此の逆流不當の變體を喜こびて爲さんとする。

○貧富論

政治上の議論、八釜しき頃となれば、時事翁は大抵顧みて他を言ふの筆法を用ふ。近來續々「貧富論」を掲載するの理由亦た斯の如し。未だ堂を伺がはざれど、門構へ甚はだ面白氣に見ゆ。

○女子と繪畫

繪畫叢誌第四十九卷は、大ひに繪畫振興策を論じ、遂に云く

今の女風を大ひに和らぐる者は之に書を學ばしむるにあり、之に美育を多くするにありと。

〇女文會

京阪、岡山、神戸、邊の女學校長時々相會し、討議して女子教育上の事を相談する會あり、女文會と云ふ。其の第二回の記事「つぼみ」と云へる雜誌の第十四開に見ゆ。大畧議決大方贊成せらる。而してかゝる仕組の所々に出で來んとは、甚はだ望ましきもの也。

〇宮中女官論

女學雜誌第二百五十三號の「宮中女官論」に對しては、所々より同意の贊成書を寄せられ、之を喜こぶと共に亦少しは力抜のしたる心地せし折柄、ある婦人雜誌は此頃に至り初めて何か反對めける論文を掲げたり。一讀するに所論要緊を得ず、吾人が本心を知らずして彼此と云ふものにて、殆んど論にかからぬものゝ如し。

〇不景氣一轉

花落ちて不景氣去り、夏來らんとして景氣正に近づく、先づ心を安んずべき也。

問答

可愛子

●問。女學生さいふ雜誌には、もはや英文章を掲載するとをお止めなさいましたか(安川瀧子)●答。止めは致しません。

●問。森鷗外氏は基督教の信者ですか(下野小俣のぶ子)●答。イヽエ、そうではありません。

●問。讃美歌、又は唱歌、又は長歌などの歌ひ方の節つけ、音調の工合等、直ぐ分るやうな書物があらば、其名を教へて下さい、なければ、貴誌にて分るやう御說明願はれませんか、例せば知盛卿の歌の節、音調なども其一です(しのべる愛子)●答。長歌の七五さ、五七になつて居るのは、譜がなくさも、自然に、節つき、音調が出ます、讃美歌、唱歌などに至つては、到底書物で習ふとは六ヶ敷いさ思ひます、音樂の教師に就てお習ひなさるが一番です、尤も今度新たに出版しました戸川殘花氏の著「讃美歌手びき」は、御參考の爲め御覽になるがよろしう御坐います、右の本は京橋區出雲町の警醒社で賣捌きます。

●問。貴社雜誌御掲載の小說「斷腸」の作者みさを氏さは、如何なる人か、女性か、男性か、又年齡は如何程か、又其本名は何さ申さるゝか、委しくお知らせを願ひます(青山賤女)●答。聞合せました處が、ドウカ名前を出さないでくれろさいふさのとですから、誠にお氣の毒ですが、分明に申すとが出來ません。

●問。私は此頃から、新約聖書を繙て居りますが、處々に分らぬとがありますが、英書でよい註譯があらば教へて下さいまし(本鄉落花生)●答。フワリミー、英文新約全書註釋、定價一圓、郵税十四錢、バーンス英文四福音註釋、定價三圓二十錢、郵税二十錢、何れも大阪心齋橋通安堂寺町上田濟生堂書店で賣捌きます、序でに申しますが、聖書の意味を知るには、邦文の方が早い樣に思はれます。

●樺山しづ子樣　演說著作材料新誌は、女學雜誌社員さもく〳〵に筆を執つたもので御坐います、八冊で、紙數二百四十餘ページで、價が四十錢です。

●熱海完子樣　小野鵞堂氏の假名習字帖は、女學雜誌社で賣捌きます、一の卷が十錢、二の卷が十二錢、外に郵税が二錢づゝ入ります。

通信

可愛子編

●千葉縣通信

武本生報

●千葉縣尋常師範學校女子部助教諭小杉クラ子が、設置に盡力せし千葉幼稚園は、當分猪鼻山下信之館内に置くこととせしが、入園を申込みし者既に二十餘名、其最も年少なるは三歳四ヶ月なりと、又同氏は爾後專心一意稚兒の教育に盡さんとて、此程女子部教諭を辭されたり。

●江州通信

江州　通信員報

●長濱高等小學　本年の卒業生は三十三名にして、内十名は女子なり、同校未曾有の卒業數にて、女子の多數は、大津高等女學校及び其他の女學校に入學せしよしなるが、男子には他に入學するもの殆ど無しといふ。

●女教師　同校には女子高等師範學校本年の卒業生なる、三好イチ孃を聘したるを以て、四月二十二日、同校職員相會して、歡迎會を催せしよし。

●近畿諸教會婦人大祈禱會　は四月二十五日午前九時より、大阪青年會館に於て開かる、當地にある教會よりして、三人の姉妹其前日出席して列席せり。

●山城伏見通信

稻花生報

●學校は小學校（尋常科二校高等科一校）あるのみ、高等小學校に女生徒五十九人あり、他に京都の女子師範學校に入學する者四名あり、又京都の高等女學校に入學する者三名あり、其他高等の女學校に入學する者數名あり。

●遊廓は三箇所あり、妓樓無慮三十軒計あり、廢娼運動は未だこれあらず、噫。

●產婆講習會は、第一尋常小學校に於て、每夜講習せり。

●岩手縣盛岡通信

佐々木吉太郎報

●私立高等學校及女學校　當地天主教會にては、是迄私立眞愛尋常小學校なる一の學校に於てのみ、子弟を教育し來りし處、今度高等學校及女學校をも設け、外國人內三名を其教師に聘し、遠からず開校するに至るべしと。

●女學校設立の計畫　當地に未だ女學校の設立なきを憂ひ、一ノ倉貫一、外岡元知、多田綱宏、田口小作、谷河尙忠、村木經傚、上田農夫、靑山正夫、淸川寬、目時敬之の十氏相謀り、一の女學校を起さんと、目下頻りに計畫中なり、而して村木經傚氏專ら其衝に當らるゝと、其資本金は凡そ壹万圓の見込の由。

女報

可愛子編

●皇后陛下の御仁惠　皇后陛下には、四月廿一日上野公園地内に開設せし赤十字社總會に臨ませられ、還御の途次、特に鳳輦を本鄕龍岡町の福田會育兒院に枉げさせられ、畏も鳳輦を門内に進せられ、育兒室前に暫く御駐輦の上、親しく育兒の實况を御臨覩遊され、育兒衣服料として金百圓、並に御菓子を下し賜ひし由なるが、同日陛下には兩三日以前より、正しく御風氣に渡らせ玉へば、侍醫の面々より、御外出の儀は然るべからずと、奏上申せしに、陛下にはいやとよ今日こそは、國の爲め民の爲め、慈善博愛の會なれば、遠き所より集ひし輩も多かるものを推してもまゐらばやと仰せ出されて赤十字社に臨ませられ、又福田會に入らせられたる由、いつもながら陛下が御仁德の程こそ畏けれと、一同感涙に咽び申せしとなん。

●皇后陛下の御惱　皇后宮陛下には、昨今少しく僂麻質斯病にて、御惱みあらせ給ふ由に承る。

●皇太后陛下の行啓　四月二十八日、皇太后陛下、從一位公爵九條道孝氏の邸に行啓。

●陸奥大臣の夫人　は其令孃及び津田出氏の令嬢を伴ひ過日熱海へ赴かれたり。

●内村鑑三氏の妻君かづ子　は四月二十一日死去されたり。

●女教師　東京高等女學校にて、此程第一回卒業せし生徒九名の内、左の七名は學校訓導を拜命せり。

麹町區麹町小學校	訓導	青木いよ
同區番町小學校	仝	市來ゆり
仝區富士見町小學校	仝	市岡こう
芝區南櫻田小學校	仝	長谷部せん
赤阪區青山小學校	仝	品川つた
本所區本所小學校	仝	平泉よれ
深川區深川小學校	仝	花形ちよ

●東京府高等女學校　にては四月二十六日、墨堤に於て、女子運動會を催す。

●日本赤十字社の有功章　は該社の社則第十五條に據り、常議會に於て決議の上、總裁殿下より上奏、裁可を經て付與するものにして、先きに同社は此章を、聖上、皇后、皇太后の三陛下並に皇太子殿下に上呈せしに、辱くも御受納在せられぬ、是れ蓋し慈善の心には、上下尊卑の別なきことを示し玉へる大御心ならん、されば心あるものは、奮て同社の事業を翼賛すべし。

●大日本婦人教育會　は四月二十六日午後一時より鹿鳴館に於て開會したりしが參會者は會長毛利公爵夫人、副會長毛利子爵夫人、幹事小鹿島筆子女史以下五十餘名にして、午後六時過る頃散會せり。

●又同會に於ては、去る四月、議員の補員撰擧を行ひしに、阿部かく子、板倉たれ子、丸山はな子、野村つぎ子、吉井たい子の五氏當撰せり、又名譽會員の中へ、公爵夫人岩倉久子、伯爵夫人松平直子、公爵夫人近衛衎子、子爵夫人谷玖滿子の四氏入られたり、又特別會員の中へ二名、通常會員の中へ二十一名、入會あり、而して退會者は十名、死亡者は二名ありしといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●女子貧民學校の創立　大日本婦人教育會にては、先年來より、貧民女子の爲め同校を設立せんとを企圖し、夫々寄附金を募り居りしが、大分賛成者も多く、且つ規則書も出來上りたれば、更に各會員に協議の上之を世上に發表し、先づ手初めとして、小石川邊に一校を設け、尙ほ進んで府下の各區中最も貧民集合の地へ、一校づゝを建んとの目的にて、目下會長毛利公爵夫人を初め、何れも奔走中也。

●慈善芝居　東京府養育院へ寄附する爲め、今日より向ふ三日間、木挽町歌舞伎座に於て興行する慈善芝居には、團十郎初め有名の役者も出る由にて、養育院慈善會長は蜂須賀侯夫人隨子、副會長は澁澤かね子又周旋方夫人令孃の受持日割は本日益田令夫人、西園寺令夫人、高木令夫人、伊達令孃、淺野令孃、明日、澁谷令夫人、穗積令夫人、板田令夫人、大倉令夫人、小島令孃、明後日梅浦令夫人、田中令夫人、石川令夫人、青地令孃、梅浦令孃にて有會員貴婦人方の休息所は、三州屋と定めたる由。

●社員有長恕氏　は鳥取縣に歸れり、政治世界に我黨の主義を應用せんとて。

●若木にまさる姥櫻　詩人松村琴莊氏の祖母兼治といへるは、昔し本丸の御狂言師を勤め、細川、有馬等の侯邸に出入して、當時御狂言の名人と、其名上下に隱れなく、今茲七十餘の高齡なれど、腰綾かに齒落ちず、先頃より芝紅葉館の給仕女等に舞曲を敎へなどして居りけるが、數日前の夜、紅葉館に於て、貴顯方の宴に於て、望に應じ、一段の舞をなせしに、何れも其巧みに感じ、男爵高崎清風氏は嘆賞の餘り「春風に花の袂をかへす間は若木にまさる姥櫻かな」と書きて與へし由。

●岐阜縣下の廢娼運動　は今盛なり、東京廢娼會より、飯野吉三郞氏該地に赴き、廢娼演說をなす。

●スウ井フト夫人の出發　故米國公使スウ井フト氏の未亡人は、令妹ノリス孃と共に亡夫の遺骸を携へ、四月二十二日午后五時、新橋より發車せられたり、青木外務大臣、同夫人、英、支、朝鮮、其他各國公使、同夫人、及び內外貴顯五十餘名、停車場まで見送りたり、同二十三日午前十時、未亡人には、橫濱出帆のベルヂック號にて乘り出されたり、臨時代理公使ダン氏書記官ガーヂナー氏夫妻譯官ドクトル、ホイツトニー副總領事シドモール氏、其他橫濱在留の重立ちたる米人百餘名孰れも本船まで見送りたりしが、夫人は別に臨みて涙を浮べ、グイドバイの聲も、いと哀れに聞えたりとぞ。

●京都織物會社の祝典　四月廿七日は、同社開業の一週年にして、皇后陛下の行啓を仰ぎたる當日なれば紀念の爲め臨時休業を爲し、社內限の祝典を擧げたる由。

●別府新助の娘　岩崎谷の露と消ゑにし別府新助の娘は、本年廿三歲、豪傑の血筋とて、雄々しき氣象に富めるのみか、天の成せる麗質は花をも欺くばかりなりと、初め別府打死の後、他家より養子を貰ひ受けしに、身持放埒を極め、終に我妻を都の城の料理屋橘亭に賣付け、其金を携帶して東京に走りしかば、跡に老母は溺り殘れ、度々都ノ城に赴きたれども、金子なければ詮方なく、其儘に空敷歸るのみなるが、橘亭は別府の娘、奉公に來りたる後我も〳〵とおとづるゝ者多きより、料理屋は思はぬ繁昌を占むるに引き換ゑ、娘の困難云はん方なく、日々の歎きに袂のかわく隙もなしと、さりとは實に憐むべき哉。

●西河喜代子ケムブリッチ大學に入る　邦人西河喜代子てふ妙齡女子は、此程英國ケムブリッチ大學少年課の入學試驗に及第し、殊に日耳曼語に優等なりし由、同女子は五年間日耳曼國來因のドッセルドルフ中學に在り、後一年間英國に留學せり、日本女子にして、ケンブリッチの課程を踐む者之を以て嚆矢とす。

●女學士の訴訟　マリヤポペリンと云へる婦人は、ブリユエリ大學校に於いて、法律學の試驗を經て、實地代言事務を扱ふことを許可せられざるに因て、訴訟を起せし處、裁判官は白耳義國には、皆て女子の代言人たるものなく、亦後來に於ても有るべからざるものなりとて女學士の敗訴となれり。

●ナポレオン一世の孫姬ボナパート內親王　は三月十七日に死去せられたりと云。

●佛國男女の婚事　結婚は男子の一生に於ては只一小事件なれども女子の一生涯には大事件なり、過般佛國にては婚姻の禮式に於て華麗の裝飾を爲すを禁ぜしに男子は之を不可とせざれども女は一生涯の大事件に於て華麗を盡すを得ざるは殘念なりとて大ひに不同意を表せり、一國の女子團結して一事を爲さんとせば成功せざる事なければ恐くは彼の法文は廢止せざるべからざるに至らんかと或新聞は云へり。

●大旅行家シェルドン夫人の容貌　最暗黑里なる亞非利加內地に入り、スタンレー氏が探檢の跡を踏まんとする女傑あり、シェルドン夫人是なり、夫人は身長(たけ)は尋常より低く、容色美はし、柔かなる毛髮は廣く額に垂れ、靑く銳き眼、白き耳、是夫人の容貌なり、夫人の年齡三十五、斯く活潑有爲の女子一度暗黑世界に入り、蠻國の內、スタンレー氏の踏跡に從はゞ夫れ或は蠻人の爲めに身を犧牲にせざる可からざるかと思へばうたゝ不便(ふびん)に堪へざるなり。

●輕便活字版　去る二月アンチエスターなるテクニカル學校に於てマックラクラン氏の演說せし所は大ひに聽衆の喝采を博したりといふ其主意は輕便活字版（タイプライテング）と速記法の事にて活字版の由來を精しく說きしと、其內に一の注意すべき點は活字版が近々敎育ある女子の用ゆる所となると云ふ事なり。

週報

●官令　四月二十五日、勅令を以て、陸軍定員令中改正の件を裁可公布せらる。

●政治　四月二十日、貴族院勅選議員なる、非職元元老院議官宮本小一、岩村定高、永山盛輝、橋口兼三、長松幹、金井之恭、渡谷修、寺嶋秋介の八氏、願に依て本官を免ぜらる●二十四日、內閣會議●二十六日、伊藤伯上京。

●社會　四月二十五日、橫井時雄氏の經營せる基督敎會堂の獻堂式。

●雜報　二十日、樞密院顧問官伯爵吉井友實氏逝く●二十六日、交詢社大會。

●日本全國女學校卒業生人名人數一覽（學校創立より本年四月に至る、）　（一）

●東京の部

●東洋英和女學校　若林りゆう子　平岩ちよ子　長谷川よし子（合四名）
●青山英和女學校　大竹清子　山口梅子　山岡京子（合三名）
●跡見女學校　三條智慧子　山內八重子　片岡君子　松野鉄千代　秋元澤子　朽木輔子　田邊朝子　平尾竹子　跡見桃子、跡見節子　萬里小路富子　田村増子　中村文子　浦早苗　山口梅子　長澤榮子（以上全科卒業）（合十六名）山口君子　新野初子　矢嶋幌子　神田琴子　吉田久子　佐藤利尾子　池田幸子　三條富子　原安子　大塚茂子（以上撰科卒業）（合十名）
（總計二十六名）
●新榮女學校　渡邊かめ子　青山さよ子　青木まさ子　井上ちよ子　皿城きむ子　菊地むつ子　麻生てい子　松井ちよ子　龜山貞子　馬塲すゞ子　高橋梅子　近藤るい子　一柳ちか子　兼友光子　村上小益　宮川つや子　大達ゆみ子　野邊地逵子　野邊地りあ子　秋山ちさせ子　牧山さだ子　渡邊たか子　藤澤よく子（以上全科卒業）（合二十三名）
佐藤楷子　高本きむ子　山岸みつ子　東城あさ子　關小きく子　外皮せむ子　長沼きむ子　西川けい子　木下らん子　吉田操子　刀根せい子（以上日本科卒業生）（合十一名）
鈴木きやう子）英學科卒業）（一名）
（總計三十五名）
●女子學院（舊櫻井女學校の部）　峯尾榮子　大野小春　長谷川きた子　青木まさ子　龜山さだ子　一柳ちか子　矢嶋逹子（以上第二部卒業）（合八名）
川政さし子　瓜生じう子　山田つれ子　奥野まつ子　提箸きん子　高野愛子　長森きよ子　三谷たみ子　野口つれ子　田中たよ子　瀧口みか子　富海みや子　坪井すむ子　品川米子　茂木けん子　望月すみ子　大井しの子　北澤きく子　望月きく子（以上第一部修業）（一部の上に二部あるを以て卒業と稱せず今此生徒は二部在學のものあり或は他の學校に於て教授方に從事する者あり）（合十九名）
神田熊千代　岡村さし子　栗塚艮子　（以上英學卒業）（合三名）
德富はつ子　古市靜子　平田しま子　潮田千勢子　橋本華子　安川たみ子　吉田悦子　中嶋ふく子　服部こま子　諏訪てる子　三浦みさほ子　長谷部萬子　富田金子　龜山らひ子　提箸きん子　ミス、エダ　奥野まつ子　岡山敏子（以上幼稚園保育法卒業）（合十八名）
（總計四十八名）
　外に豫備に當りし櫻井小學校に於て高等小學卒業の證を授與せし生徒九十五人あり、之を加ふれば總計百四十三人となる。

品名	四月三十日
白米（一円ニ付）一等米	斗升合 一〇〇
二等米	一〇三
三等米	一一〇
四等米	一一三
五等米	一一七
正米（一円ニ付）越中米	斗升合 一四八
越後米	一四四
美濃米	一四五
尾張米	一四三
一志米	一三八
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	斗升合 二五五
上州小麥	一六三
竹林麥	一四五
梅澤大豆	二一〇
青柳大豆	二〇〇
吟小豆	一五〇
白胡麻	一二五
黒胡麻	一四三
鹽（一円ニ付）赤穗	三、二五
大坍	三、三二
本齋	五、二五
新齋	五、七五
醬油（一円ニ付）最上	八一
極上	九二
上物	一四〇
中物	一九〇
並物	二三〇
味噌（一円ニ付）地製上白	貫 六、七〇〇
同上赤	六、七〇〇
同紅赤	四、七〇〇

品名	四月三十日
絹糸（一円ニ付）本練花色	目 二三五
色物上々	二三五
赤白上々	二三五
延糸上々	三〇五
芥子糸上々	二四五
薄色上々	二四〇
色物太練	二四五
羽二重糸	二四〇
極天上色物	二二五
紡績器械糸	四三〇
夏物（一反ニ付）都華織	円 七、五〇〇
璧上布	六、〇〇〇
明石縮	七、〇〇〇
加茂川縮緬	六、〇〇〇
平上布並敷寄屋	六、〇〇〇
濱縮緬夏友仙	一〇、〇〇〇
絽上々	七、五〇〇
同並上	五、五〇〇
夏御召織上	一〇、〇〇〇
同並	七、五〇〇
白木綿（一円ニ付）玉鶴	反 三六〇
綾鶴	三九〇
日の出鶴	四〇七
若柳	三一七
古新	三二五
間銘	三九八
袴地（一反ニ付）練仙臺極上	八、八〇〇
同並	五、二〇〇
仙臺平極上	七、三〇〇
同並	五、〇〇〇
五仙平極上	五、〇〇〇
嘉平治平極上	一、八〇〇

品名	四月三十日
鰹節（十貫目ニ付）薩摩大	円 一六、五〇〇
伊豆上	一九、〇〇〇
城の腰同	一八、〇〇〇
遠州同	一七、五〇〇
房總同	一五、五〇〇
銚子節同	一四、〇〇〇
水戸磐城上	一四、〇〇〇
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀頭	円 二、三五
同大頭	一、八五
同小頭	一、五五
狹山稀頭	一、七〇
同大頭	一、三〇
同中頭	一、一五
炭（一円ニ付）伊豆上	俵 四、五〇
同中	五、五〇
同下	六、五〇
角備上	二、八〇
丸備上	二、二〇
淺上	三、八〇
土炭堅燒	八、五〇
同切炭	七、五〇
水油（一樽ニ付）地水	円 七、二〇
胡麻	九、六〇
荏油	一一、六〇
桐油	六、七五
綿油	六、五〇
坂水	八、二〇
石油（一箱ニ付）チヤスター	円 一、六三
デボース	一、六五
ホーキ	一、六七
ロシヤ	一、五八

女學生

第十二號

一層改良して出で來りぬ。春夜明

月の圖あり 細舟錦波の上に棹さし好友互ひに談ず景何如

毎月一回發兌●一冊郵稅共六錢●

女學生

勉學の一問題……星野愼

まとひの莚

鎌倉、春夜の友……暗光子

小川の流れ……假名子

まさひの唱歌……金光子

枕頭一感(勝收、勇怯、儉吝)……天知子

現出す、無形の人物……川合信水

愛なる哉……方寸子

睦びの家

困苦の軒端(上)……(女子學院)秋野すゝき

性を戕ふ勿れ……(女子神學校)佐藤德子

春さめの涙……(明治女學校)星野ゆう子

私の婚せざる理由(下の卷)……(女子學院)秋野女史譯

手かく事……(女子神學校)森田千子

花開風雨多……(共立女學校)岸多加子

東洋の婦人……(立教女學校)栗原優子

風嫉むが如し……(橫濱共立學校)岡田於菟子

遼東の豚……(女子神學校)北條衣子

寄せぶみ

愛する妹の歸鄉を悲みて……のぶ

雲峰子さ暗光子……川合信水

女學生第十號を讀む……分部盛之

望鄉……望鄉生

學びのしをり

唐詩選解義

飜譯者(其三)

文章の心得(其一)

春の夜ばなし

山姥の怪談。 徳川公の感嘆。 東坡小妹に戯る。

●女學生仝盟各女學校は左の如し

○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○靑山英和女學校○金城女學校○高田女學校

女學雜誌社發行

生等委員各學校ノ推托ニ應シ來ル**七月下旬箱根ニ於テ第三回夏期學校**設立ノ計畫罷在候處何分**資金不足**ニテ万端捗リ兼候間大方諸君ノ**御寄付**ヲ仰キ以テ此事業ヲ成功仕度就テハ御思召ノ御方ハ麴町區三番町十番地福音新報社又ハ下名ノ會計主任者宛不拘多少**御送金被下度**此段雜誌上ヲ以テ御願申上候

尙ホ御送金被下候節ハ拜受ノ證トシテ御姓名ヲ新聞紙上ニ記シ請取證ニ代ヘ候

牛込區北町一番地

高等商業學校委員(會計主任) 上領純一

東京英和學校委員 笠原民次郎

第一高等中學校委員 擣谷榮

東洋英和學校委員 小澤孫太郎

明治學院委員 遠藤維雛

立教學校委員 松木貞次郎

同志社委員 草部一男

東京專門學校委員 田川大吉郎

田口卯吉君序 乘竹孝太郎君翻譯

●單本位複本位 **貨幣論集** 全 正價金四十錢 郵送料金八錢

此書ハ單本位複本位ノ得失ニ關シ貨幣學ニ最モ著名ナル歐米諸大家ノ論說ヲ纂譯セル者ニシテ讀者若シ此書ニ就テ兩黨ノ論スル所ヲ細嚼玩味セラレナハ此大問題ヲ講究スルニ於テ大ニ裨益アラン

石川暎昨君述

●米伊 **紙幣交換始末** 全 正價金五錢 郵稅金二錢

此書ハ米伊兩國ガ輓近紙幣ヲ增發セシヨリ兌換ヲ行ヒタル後迄ニ二國ニ發セシ經濟ノ現像ヲ詳記スル者也

文部省檢定濟尋常中學校教科用 ○○○○○○○○○○

島田三郎、小池靖一、末廣重恭三君批評 田口卯吉君著

●**支那開化小史** 全 正價金九十錢 郵稅金十錢

此書ハ支那開闢ヨリ明末ニ至ルマデ社會ノ變遷ヲ記セシ者也

發兌 東京京橋區彌左衛門町七番地 **經濟雜誌社**

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

家庭廉價女學書類發行

女學雑誌社編輯

子供の談

紙數八十葉　郵税なし　定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、蟻の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とタ〻イマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮

紙數六十七葉　郵税なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散歩、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を遇する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理

紙數百九十葉　郵税なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷妊の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内

紙數百廿葉　郵税なし　定價五錢

右は八木彔辰氏の講述にかゝるものなり。

兒育て草

紙數百六十葉　郵税なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學

紙數百六十葉　郵税なし　定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

女學雑誌大安賣

第百號より、第二百號に至る迄、欠號なく調ひ居るもの多少有之候まゝ**百巻をば**僅に**一圓五十錢**にて前例の如く賣拂ひ可申候、其后欠號を生ずる分八十冊にて**金一圓の**割にて相そろへ賣拂可申候但何れも一と通りづゝ買入を要する義にて其内撰び取りは斷はり候、右百號より二百號に至る間には、出版の當時世を驚かしたる、「日本の家族」「浮雲の細評」「理想佳人」「理想の紳士」「家内經濟の大要」「男女交際論」「經濟雑誌記者との論戰」「島田三郎氏米國よりの女界通信幾多」「無名の英雄」「戸内の戰死」「大鳥圭介氏、德富猪一郎氏、田口卯吉氏、光明寺三郎氏等の女子教育論。」月の舎しのぶ氏が「哲女の卷」「將來の和歌」「將來の日本人民」。森有禮氏の「妻妾論」「櫻花爛熳」「滿目潑々」梨庭望村氏が最秀の自作小說とする「昔の夢」「此大沙漠界一人の詩人あれよ」「繪畫に於ける國粹保存主義」「犧牲獻身」「詩人」。若松しづ子が「忘れ形見」等の極めて面白き甚だ益あるものを含めり。

●生徒募集廣告

本校學期試驗結了ス此際（本科、撰科）トモ入學ヲ許ス有志ノ者ハ至急來學セラレヨ

四月

芝公園能樂堂前

私立東京女子手藝學校

定價

一冊。	六錢	郵税。五厘	（但府内無郵税）
十一冊。	五拾八錢	郵税。五厘	（同　前）
半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雑誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

再版　暗記誦學販賣廣告

從六位勳六等萩原汎愛君題詠　李門村上先君序文
發明臼田千代吉君著述

暗記誦學

○紙數百四十頁餘○紙質極精撰○洋裝美本金文字入○定價金四拾五錢○但シ前金ニ非ラサレハ送附セズ○郵劵代用一割増○送本ハ御回金ノ順序トス○遞送無料

鳥取市西町百卅四番
暗記誦學舍

○臼田千代吉氏數年焦慮ノ結果ハ遂ニ昨廿三年ヲ以テ一大新法ヲ發明スルニ至ル暗記誦學ナル者ハ**視力**ヲ借ラズ暗記及算術ヲナスヿヲ目的トシ**紙片**或ハ**草葉**等ノ**折形**ニ依ル以テ左ノ便益ヲ得ルニ足ルヘシ

一他人ニ秘シテ○記誦及算術ヲナスヲ得○懐中○袖中○袴下○帽子ノ中○ハンカチーフ等ノ内○外套ノ内○其ノ他何レニテモ只手頸ヲ掩ヒ得ラルヽ處

一道路奔走中記誦及算術ヲナスヲ得○人力車○滊車○馬上○舟中等如何ニ動搖スル處ト雖

一暗夜寢床ニアリテ記誦及算術ヲナスコトヲ得起臥屈伸ニ拘ラズ

一盲人ヲシテ容易ニ文字ヲ知リ文章ヲ作リ及ヒ算術ヲナサシムルヲ得

外來診察時間

當分午前八時ヨリ正午限但シ入院申込並ニ產科往診ハ從前之通

日本橋區濱町二丁目十七番地千歲座河岸通
楠田產科婦人科醫院

美術源本繪畫叢誌

每月一回發行

第四十九卷既刊　一部金拾五錢　府外郵稅一冊五厘
●六部前金八十錢　●十二部前金壹圓四拾錢　●會員一部拾錢　●入會望ノ諸君ハ郵劵二錢ヲ送ラルレハ規則書ヲ呈ス

○論説　繪畫振興策
○記事　日本美術協會所在美術展覽會、美術展覽會審査員、全展覽會參考古畫、油上春學經論語詩、京都私立日本青年繪畫共進會、橫濱繪畫展覽會、裝束文飾、推談、大阪繪畫館開館式、渡邊華山記念碑竣工式、古畫展覽會、繪畫落款式、穗庵翁布袋和尚に題す、久保田米僊肖像畫之說、松本楓湖日本畫、茶六浸筆、繪畫上の國粹は國家教育の得策、平福穗庵傳
○挿畫　穗庵 布袋和尚　王石谷 陽關圖　秋景山水　春景山水　寫眞畫 清人美若　浦上春琴　倣秋月　小林永濯 肖像　雙鵲　芭蕉　觀音普門品圖　寫眞畫 望月金鳳　長澤蘆雪　倣雪舟

本誌ハ江湖ノ好評ヲ博スルノ幸ニ遇ヒ入會ノ諸君月ニ加ハリ愛讀ノ雅客日ニ増スカ爲メニ既刊ノ卷ハ欠乏ヲ告ケタルヲ以テ今般再版ニ附シ第一卷ヨリ第四十九卷マテ全備致シ何時ナリ𪜈御需ニ應スベク候間本邦美術振興ニ左袒ノ君子ハ必ス御高閲ノ榮ヲ下賜候樣ニ冀望仕候敬白

發行所　日本橋區箔屋町六番地　**東洋繪畫會事務所**

五月三日發兌國民之友第百拾七號には金森通倫氏の日本現今の基督教及將來の基督教と題する痛快斬新なる論文を掲く

京橋區日吉町
民友社

天賞堂時計發賣廣告

瑞西國シイベル、フレンワルド横濱新九十番商會專賣に係る時計の精巧堅牢なるは江湖の熟知せらるゝ處弊堂該懷中時計數十種中に就き左の八種を撰擇し廣く之を發賣す

（金側）丁價六十圓●十八金廿一形片硝子時出し付金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上げ鍔向ひ爪左アンクル二番より惣石入●丙價七十圓同裏三枚蓋●乙價七十五圓同無雙●甲價九十八圓同裏三枚蓋●各器械構造略圖の如し●東京市外遞送費廿錢●（銀側）丁價八圓片硝子廿一形金針入龍頭卷懷中時計器械プラチナ渡金向ひ爪左アンクル●丙價十一圓同龍頭卷左向ひ爪右アンクル●乙價十五圓同本ニッケル卷上ゲ鍔二番より惣石入●甲價廿一圓同七所金●各器械構造概略圖の如し●東京市外遞送費廿錢

右時計は器械の堅牢なる弊堂が說明を待たざる處なり然れども特に御請求の分に限りて左の手續に從ひ正當の保險狀を呈すべし○保險を要せらるゝ場合は御購求の當時と既に御購求の後に在るとに拘らず各一個に付左の保險料を申受べし　一金側金五圓　一銀側金二圓○保險年限は金銀時計共二十箇年を以て限とす○保險年限中は時に諸器械及び硝子の破損修繕油さし磨き直しの手入は無代價とす○保險年限中自然器械の變化を生じ使用に堪へざる事あれば何時たりとも同種にして新規なる者と交換又は原價を返却すべし●保險の有無に拘はらず

御購求後三十日以內に限り交換又は原價の返戻を要せらるゝときは其望に應ずべし

今回又左の時計及時計附屬品洋服裝飾品各種を發賣す●但し時計は保險手續其他總て前文による

米國製

（金側）十八金廿一形無雙龍頭卷懷中時計甲價百五圓●同乙價九十五圓●同十四金甲價七十三圓●（銀側）同甲價廿圓●同乙價十六圓●同片硝子價十五圓●（金着側）同無雙甲價廿九圓●同乙價廿五圓

瑞西國製

（金側）十八金廿一形無雙卷上げ鍔向ひ爪左アンクル二番より惣石入價六十五圓●同十四金價四十九圓●同十八金裏三枚蓋乙價九十二圓●同甲價百十圓●同七曜及日附付價百圓●同コロノカラフ引打月の滿缺十二ヶ月七曜及日附付價三百五十圓●（銀側）廿一形無雙裏三枚蓋金針入龍頭卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ鍔向ヒ爪左アンクル總石爪石入價三十六圓●同片硝子右アンクル價廿九圓●同中硝子價廿六圓●同片硝子鍵卷懷中時計器械本ニッケル卷上ケ鍔向ヒ爪左アンクル價十一圓●同惣石入價十五圓●同爪石入價十八圓●同十三形無雙龍頭卷懷中時計價廿九圓●同裏三枚蓋價四十五圓●同片硝子價十七圓半●同無雙金剛石裝飾付價六十六圓

貴婦人持時計

（金側）十八金

時計附屬品

鎖及磁石寫眞入鉛筆其他各種

指環

黃金製見留印付及寶石入各種

洋服裝飾品

腕輪胸飾ピン手ボタン其他各種

交詢雜誌評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は米國製及び夙に時計の製作を以て世に有名なる瑞西國の製品にしてその器械の堅牢なること其の構造の精緻なることその裝飾の美麗なること何れも世間の好評に違はざる眞品なり尚且購求後三十日以內は購買者の自由に之を取換又は返還するを得て望みに依れば二十箇年を限り之を保險しその年限中は無代價にて之を修復するよしなれば購買者の爲め更に一層の便利なりと云ふべし

東京日日新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て有名なる京橋區尾張町二丁目十八番地の天賞堂にて此程より發賣する金銀時計は歐米製造數千百種の中につき特に器械裝飾の善良完美なるものを撰擇せしものゝ由にて從來舶載の物に比すれば堅牢精緻なる同日の談に非ざるが如し殊に時計一個毎に丁寧親切なる心得書を添へ又二十年間の保險を附し購求後三十日以內は物品の交換原價の返却とも購客の望に任すると云へば自然適意の品物を入手するを得べきなり猶前日來の廣告につき其詳細一覽あるべし

時事新報評

○天賞堂ノ時計　尾張町二丁目ノ天賞堂ニテ發賣スル時計ハ何レモ機械ノ堅牢ナルモノヲ撰ミ購求者ヘ取扱ヒ方心得書ヲモ與ヘ買取後三十日以內ハ交換或ハ原價ノ返却ヲ求ムレハ其望ミニ應スルトノコトナリ

朝野新聞評

○天賞堂の時計　印刻を以て名ある尾張町二丁目天賞堂にて發賣する時計は各種の時計中に就き特に撰擇せしものにて在來の時計に比し機械も餘ほど堅牢精功なるに一個毎に取扱心得書を添へ且購求後三十日以內は都合に依り交換又は原價の返却を求むる時は其望みに應ずる由

郵便報知新聞評

○天賞堂時計　彫刻ニ有名ナル天賞堂（京橋區尾張町二丁目十八番地）ヨリ發賣スル時計ハ米國製或ハ瑞西國製ニシテ器械堅牢且ツ裝飾美麗ナルヲ以テ大ニ評判ヨク殊ニ購求後三十日以內ニ現物ガ氣ニ入ラヌ時ハ他品ト取換ヘ又ハ原價ヲ返戻スルヨシナレバ購客モ大ニ安心シテ買求メ望ミニヨリテハ保險ヲモ附シ其ノ年限內ハ器械及ビ硝子ノ破損等ノ修復ハ無代價ナリト云フ

日本人評

○天賞堂の時計　尾張町二丁目の天賞堂より發賣する時計は、歐米各種の製造品中より就き、特に器械の堅牢なるものを撰擇して、一個毎に丁寧なる取扱方心得書をも添へ、其上二十年間の保險を附するのみならず、購求後三十日間は、品物の變換、代價の返還とも凡べて其の望み通りに任かすと云へば、購買者に取ては至極便利なりと云ふべし

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地

天賞堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY